

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	外部評価調査訪問時には夜間想定訓練は実施予定日前であったため早期実施をとの評価を受けた。調査訪問後の3月28日消防通報訓練を含む、夜間の人員配置による避難訓練を行った。夜間想定とはいえ、午後の明るい時間の訓練であった為、入居者もパニックにならずスムーズに避難誘導を行えた。しかし課題として、災害発生時、昼夜に関わらず、入居者が就寝中であることを充分考慮しなければならないため、昼夜年各1回の訓練では災害対策として不十分である。	消防通報、避難訓練は、年2回以上行い、3ヶ月に1回昼夜どちらかの訓練を行う。法人施設合同の防災・炊き出し訓練に入居者と共に参加する。	災害時に職員が慌てることが無いように設備機器の扱いや点検を日常的に行うことで危機管理意識を向上させる。毎月の避難訓練が理想ではあるが、3ヶ月に1度の訓練実施により、入居者の平時の動きを知った上での職員が災害時どのように行動すればよいかをシミュレーションし、それを基に継続実施する。	1ヶ月
2	49	寒い暑い、インフルエンザ等感染症、熱中症の対策として健康を害さないようにとの配慮での外出の機会が減少しているだけでなく、居室共有スペースでの生活時間が長く、外気にあたる感じが少なく感じる。職員も外出が特別なことと感じている。	日常的に外出する機会を増やす。	施設の車での外出だけでなく、当施設とバス停までは距離があるが、法人巡回バス(法人施設 大型商業施設 大久保駅 法人施設)に乗り、法人他施設入居者(ケアハウス)等とふれあいながら出掛ける。職員が入居者の外出を特別な事のように思うことのない様、日常の有るべき時間であることを認識させる。	1ヶ月
3	8	権利擁護に関する制度の研修が必要であると認識し、研修資料の準備はしているが、事業所研修として実施できていない。	施設内教育訓練年間計画の教育訓練項目の1つとして実施する。	権利擁護に関する制度について熟知の生活相談員が講師となり、全職員に対して研修を行う。	3ヶ月
4	6	施設玄関は夜間以外解錠しているが、ユニットドアの電子ロックの全解錠には至っていない。ユニットドアの施錠が拘束であることは充分認識しているが、現況では出掛ける事を望んでいる入居者がいらっしやる為、安全面を考え、解錠時間の調整をおこなっているのみである。	ユニットドアの電子ロック解錠時間の延長。	全職員にユニットドア施錠が身体拘束であることを認識させ、一人ひとりの心身の状態、生活スタイルの把握に努めさせ、解錠時間を増やしていく。	10ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。